

- ☑ 京都市での食品リサイクルループ構築
- ☑ 事業活動報告
ゼロエミッション研究会
- ☑ 事業活動報告
森林保全活動 日向の森・あいち海上の森



トピックス

2022年度 京都市での食品リサイクルループ構築

2022年度は、京都市にて環境省の補助事業「食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業」として、食品廃棄ゼロ京都プロジェクト「食品廃棄ゼロ×食品リサイクル100%」に取り組みました。

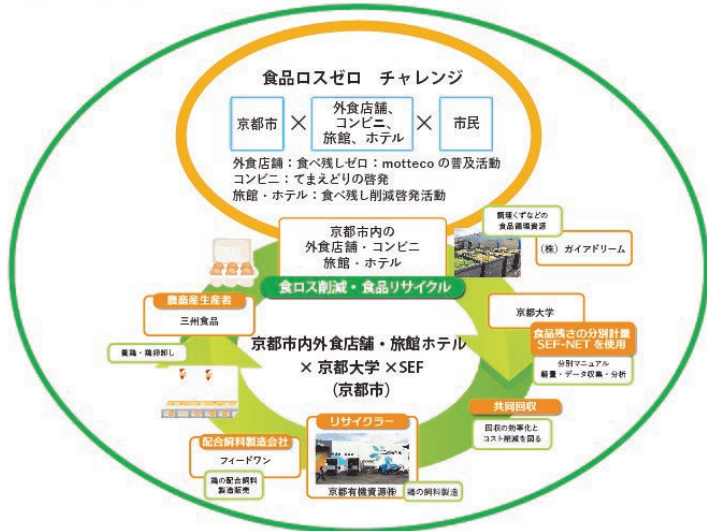
食品廃棄ゼロ京都プロジェクト「食品廃棄ゼロ×食品リサイクル100%」は、食品廃棄ゼロエリア構築を目指すものであり、食品リサイクルの取り組みが低迷している外食産業・宿泊施設、そして消費者に一番近い小売業が協働して食品ロスゼロ、食品リサイクルに取り組み、食品廃棄ゼロエリアを実現し、多様な排出事業者の共同リサイクルループ構築を目指す取り組みです。

外食産業・宿泊施設がリサイクルできていない原因としては、1店舗の規模が小さく、排出される食品残さが少量なので、単独ではリサイクル事業者への運搬が困難であり、経費も掛かるためと考えられます。

また、外食店舗や宿泊施設の食品廃棄は、厨房からの食品残さと、客席からの消費者の食べ残し(食品ロス)の、2カ所から発生しているが、その種類や量の実態は、計量による正確なデータが無く、発生原因の追究や削減への対処が的確に行われず、両方併せて食品廃棄物として処理されています。

そこで、本事業では4つの取り組みを行い、食品廃棄ゼロエリアを創ることを目指しました。

京都食品廃棄ゼロエリア = 食品ロスゼロ + 食品残さ100%リサイクル



①食品ロスゼロ

京都市と連携し「京都食べ残しゼロ推進店舗」活動に参加し、消費者への啓発活動を行い、食品ロスゼロの実現に取り組む。さらに京都大学と連携し、消費者の意識調査を行い、有効な対策を構築する。

②計量で食品廃棄の発生抑制

参加店舗・施設に計量機を設置し、排出原因別(食品残さ・食材廃棄・食べ残し)に計量し、種類と量を見える化。そのデータ分析をSEFが行い、原因の特定をして対策を検討し実施することで発生抑制を図る。

③共同食品リサイクルループの構築

食品残さを共同回収し、飼料に再生、最終製品である鶏卵を参加事業が仕入、消費者に提供し、食品リサイクルループの環を構築し、地域資源循環圏の形成を図る。

④環境負荷低減効果(CO2削減など)を検証

食品廃棄削減と食品リサイクルループ構築による循環型社会構築が脱炭素社会に貢献することを実証する。

以上の4つの取り組みを行いました。

結果、食品ロスゼロには実証期間中は届かなかったが、食品リサイクル100%を達成することができたことで、今回の事業の目的であった「食品廃棄ゼロエリア」は達成することができました。

今回構築した食品廃棄ゼロエリア京都プロジェクト「食品ロスゼロ×食品リサイクル100%」は食品リサイクルループの認定を受け、参加企業を募り、さらに拡大をしていきたいと考えています。

<ゼロエミッション研究会とは>

当財団では、ゼロエミッションの実現に向けて、2017年より食品小売業・外食産業の店舗から発生する廃棄物(特に食品循環資源)の発生抑制・資源循環・適正処理の手法を学ぶ場として、「ゼロエミッション研究会」を開催しています。

第5回ゼロエミッション研究会

1月26日(木)に今年度5回目となるゼロエミッション研究会を開催しました。35社60名の方にZoomとのハイブリット勉強会にご参加頂きました。今年のテーマは京都市での食品廃棄ゼロエリア構築です。11月から活動開始した食品廃棄ゼロエリア京都プロジェクトの進捗についてと廃棄物関連法令をご専門とされる弁護士佐藤泉先生に、ご講演いただきました。

廃棄物関連法令の最新の動向と事例の紹介

佐藤泉法律事務所 佐藤 泉氏

今、起きている戦争に関連して、戦争と資源価格についてと環境法の歴史についてお話をいただきました。その後、循環型社会の法体系とそれに係る法律について、廃棄物と再生利用についての解説を、法律や事例を交えてご紹介いただきました。最後に現在の日本の状況とリサイクルの技術についてお話をいただきました。



佐藤 泉氏

第6回ゼロエミッション研究会

3月30日(木)に今年度6回目となるゼロエミッション研究会を開催しました。45社83名の方にZoomとのハイブリット勉強会にご参加頂きました。農林水産省 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室 森幸子室長と環境省 環境再生・資源循環局 リサイクル推進室 兼 循環型社会推進室 水谷勉室長にお越しいただき、「食品ロスおよび食品リサイクルについて」のご講演をしていただきました。また、今年のテーマである京都市での食品廃棄ゼロエリア構築が2月で終了したため成果報告と協働した京都市様より、「お結び広場」のご紹介をしていただきました。

食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢

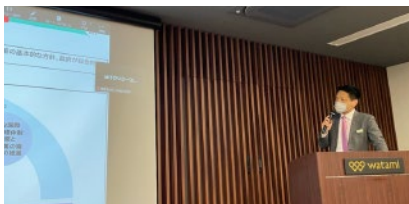
農林水産省 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室 森 幸子室長

食品ロスの現状から始まり、食品ロスを巡る法体系、事業系食品ロス削減に向けた取り組みで納品期限や賞味期限の延長について、また、フードバンクや食品リサイクルの課題や取り組みについてご紹介いただきました。そして、バイオマスの活用や昨年施行された緑の食料システム戦略についてのお話をいただきました。ゼロエミッション研究会は、食品関連事業者が多く参加されているため、事例を交えてのお話はとても参考になりました。

「循環経済に向けた取組と食品リサイクル、食品ロス削減」について

環境省 環境再生・資源循環局 リサイクル推進室 兼 循環型社会推進室 水谷 勉室長

循環型社会を形成する環境関連法の法体系のご説明から始まり、2050年カーボンニュートラルに向けた素材や製品ごとの再生利用の方向性、プラスチックの資源循環についてご説明をいただきました。プラスチックは、一般家庭も巻き込んでの取り組みであり、容器包装にかかわるため興味深いお話でした。また、食品の資源循環についてのお話をいただきました。



水谷 勉室長

2023年度ゼロエミッション研究会 参加者募集

【日程】全6回

- 第1回 5月17日(水)
- 第2回 7月20日(木)
- 第3回 9月21日(木)
- 第4回 11月30日(木)
- 第5回 1月25日(木)
- 第6回 3月14日(木)

【勉強会 会場】ワタミ株式会社 東京(大鳥居)本社

【参加費】70,000円

- ※賛助会員(民間団体)は無料
- ※別途:見学会交通費、遠方への個別相談時交通費

【講師】

- ・百瀬則子氏
(SEF業務執行理事、ワタミ株式会社SDGs推進本部長)
 - ・志岐秀明氏
(SEF理事、株式会社ガイドリーム代表取締役)
 - ・牛久保明邦氏
(SEF顧問、東京農業大学名誉教授)
- ほか、資源循環・廃棄物関連専門家多数登壇予定

★概要をご確認のうえ、SEFホームページからお申込みください。 <https://save-earth.or.jp/archives/8599>

森林再生事業 活動報告

日向の森、海上の森で 森林保全活動を実施しました！

2023年1月から3月の森林保全活動

活動日	場所	イベント	参加人数
1月	14日	日向の森 定例保全活動	11名
	28日	日向の森 定例保全活動	12名
2月	11日	日向の森 子どもスマイリングプロジェクト林業体験	6名
	25日	日向の森 定例保全活動	12名
3月	11日	あいち海上の森 保全活動	24名
	25日	日向の森 定例保全活動	16名

2022年4月～2023年3月末までの累計

日向の森 **620名** あいち海上の森 **83名**

ウディミナミの森 **10名**

◎日向の森(千葉県山武市) 活動報告

2月25日(土)、山武市の子どもたちのための、木育学習のフィールドを整備しました。

参加されたボランティアの方に、軽トラックや刈払機を持参してくださった方がいたため、倒木の撤去や5月に植林する場の下草刈りをすすめることができました。

午後は引き続き撤去作業班、植林場所の整備班と日向の森に捨てられたゴミの回収作業に分かれて行いました。

以前からゴミを不法に捨てていく人がいるため、市に依頼して回収処分することにしました。回収したゴミには空き缶・ペットボトル・肥料・燃料缶などが目立ちました。中には壊れた人形や炊飯器、蛍光灯までありました。森の中には人気少なく誰が破棄したかわからないため、きっと日向の森だけでなく全国の森で、ゴミの不法投棄は行われていると想像できます。

ゴミを捨てるのをためらうほど、美しく、生物がすみやすい森を、皆で保護していきたいと思いました。



◎あいち海上の森(愛知県瀬戸市) 活動報告

SEFでは、特別賛助会員企業のワタミグループと愛知県との3者で、愛知県の県有林「あいち海上(かいしよ)の森」(愛知県瀬戸市)における森林保全協定を2020年4月1日付けで締結しています。

3月11日(土)にボランティア・スタッフ計24名の大人で森林保全活動を開催しました。主に愛知県や静岡県ワタミ宅食社員に参加して頂きました。ワタミの森では人工林の育成管理のため、5月に実施した森の健康診断の結果を元に、よりよい木々を残し、10年かけて斜光が入りやすい健全な森を目指すことにしました。

今回は、斜光を遮る常緑の広葉樹を除伐しました。2人1組になり、手のこで伐採できるサイズの木を切っていました。伐倒時には声を掛け合って安全に配慮し、作業を行いました。



午後はワタミの森をどんな森にしたいか、三チームに分かれて案を出し合いました。

具体的には各班に付箋を配り、付箋には班ごとでまとめた企画案を書いて、最後は大きな模造紙に各班ごとで書いた付箋を貼り、カテゴリー別にまとめて最終的にどんなことをやりたいか、まずできることは何かを議論しました。様々な案が出て、大きなカテゴリーでいくと遊び・生態観察・宿泊滞在施設・設備の管理に分かれました。ワタミの森では多くの登山者が休憩で使用しているということもあり、まずは間伐材を使ったベンチや階段づくり、最終的に東屋を森に作ることを目標にしました。そして、3月11日14時46分は東北大地震の日でした。全員で当時被災された方々を想って黙とうを捧げました。私たちは自然の豊かさから幸せな生活を送っていますが、逆に自然の猛威でたくさんの被害を受けています。自然と共存できる社会を創るにはどうしたらいいのか、考えていかなければならないと感じました。





SEFでは、各地域での森林保全活動をお手伝い頂けるボランティアさんを募集しています。

千葉県山武市では原則として毎月第2・第4土曜日に定例活動を行っているほか、他地域でも年数回の活動を実施しています。

なお、活動実施にあたり感染症の拡大防止に最大限の配慮を講じてまいります。

下記リンクから確認事項等ご参照のうえ、ご参加をお願いいたします。

<https://save-earth.or.jp/archives/6783>

<2023年4月～5月の活動予定>

●千葉県山武市(日向の森)

※引き続き、2018年の台風15・19号による被害を受けた人工林の復旧作業を中心とした活動を予定しています。

4月8日(土) 4月22日(土)

5月13日(土) 5月27日(土)

6月10日(土) 6月24日(土)

●愛知県瀬戸市

(あいち海上の森)

4月15日(土)

※その他地域での活動予定については、SEF ホームページをご覧ください。

活動の詳細、お申込みはコチラ ▶▶ <https://save-earth.or.jp/event>

賛助会員・サポーター入会のご案内

SEFの活動は、皆さまからのご支援に支えられています。

「美しい地球を未来の子どもたちに残したい」。この思いにご賛同いただける皆様のご入会をお待ちしております。

企業・団体	会員特典	<ul style="list-style-type: none"> ・食品リサイクルループ構築支援 ・「企業の森づくり活動」支援 ・廃棄物法令、食品リサイクル、廃棄物管理等の専門家による助言・指導 ・「ゼロエミッション研究会」など、各種セミナー等へのご招待・ご優待 		
	会員区分 年会費	特別賛助会員	1 □	500,000 円
個人	会員区分 年会費	賛助会員	1 □	50,000 円
		資源循環サポーター	1 □	50,000 円(資源循環事業に用途を限定)
		森林再生サポーター	1 □	50,000 円(森林再生事業に用途を限定)
	会員特典	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゼロエミッション研究会」など、各種セミナー等へのご招待・ご優待 ・森林ボランティア活動参加者に千葉県産サンプスギ製「サポーター登録証」を発行 		
		賛助会員	1 □	10,000 円
		資源循環サポーター	1 □	1,200 円(資源循環事業に用途を限定)
		森林再生サポーター	1 □	1,200 円(森林再生事業に用途を限定)

ご入会のお申込みはこちらから→<https://save-earth.or.jp/member/apply>

